

## 実習ほ場の個別管理についての課題

## 1 栽培品目

@全員が同じ品目を栽培することを通じて技術を学ぶ共通品目と、就農品目等を考慮して一定のリストから選択して栽培する選択品目を設定する。

区分	ハウス	露地
共通品目		
選択品目		

※R7以降の準備期間を含めた緑肥、作物等栽培サイクルは、別紙のとおり。

## 2 休日及び長期休み中の管理

## (1) 農大2年制での管理方法（現状）

- @農大生は全寮制である。
- @ほ場等での実習は共同作業で行なっている。
- @土日等の管理（水やり等）は当番制で実施
- @2年生の卒論に係る栽培管理は個別で行なっている部分もある（夏休み等も）。
- @夏休み等長期休み中は、1週間交代の当番制で管理（水やり等）

## (2) 有機農業専攻の管理方法（検討案）

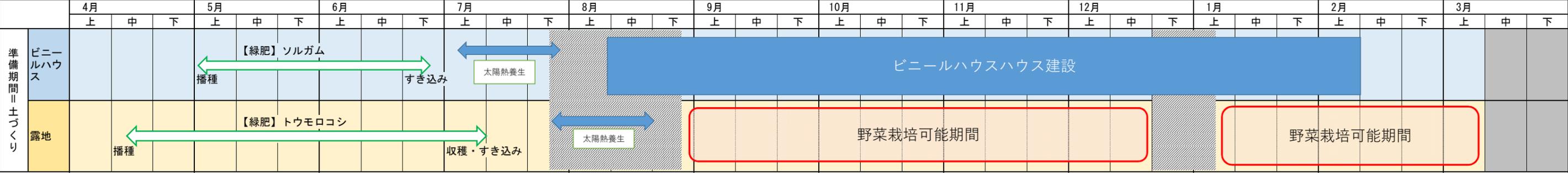
- @通学制である。
- @実習ほ場の管理は個別で行なうことが特徴と公表している（全てを自ら体験することで、短期間で技術や経営感覚を養う狙い）。
- ⇒ 本専攻の学生となる人の想定は、社会人経験者で就農を目指す人
- ⇒ 農家になれば毎日の農作業が必要

案1	個別管理とする。 ただし、個人での管理が難しい場合は、学生同士で管理を依頼する等調整を行なう。
案2	当番制で管理する。 水やり等の必要な最低限の管理とする（収穫等は行なわない）。

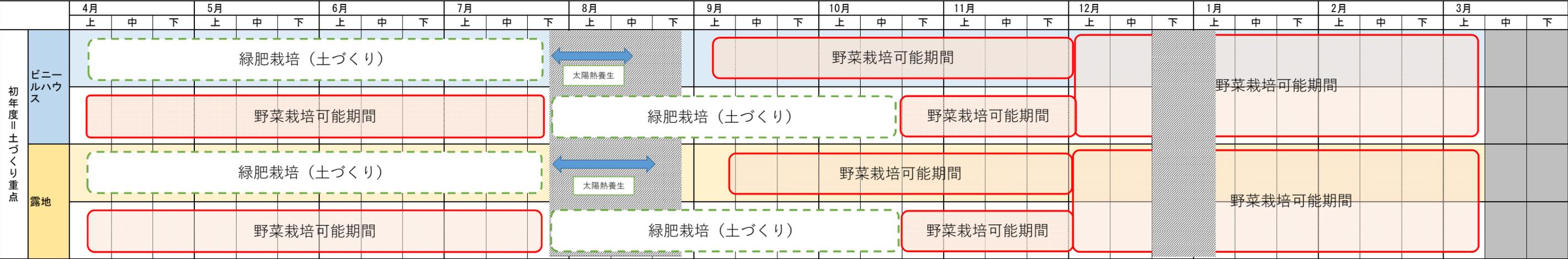
※夏休み期間中は太陽熱養生など、土壌消毒・土づくりの気管に当てるなど、収穫等の作業が発生しないよう栽培サイクルを工夫する。

有機農業アカデミー開設準備期間から開設当初のほ場利用計画（案）

<令和7年度>



<令和8年度>



<令和9年度>

